

杉並区和泉第二町会

事業名

和泉防災コミュニティー ～顔の見える街づくり～ ユニバーサル野球を楽しもう

事業概要

- 年齢や障害の有無などに関わらず誰もが楽しめる巨大な野球盤を使い、「ユニバーサル野球」を開催。世代やコミュニティを超えた新たな交流に結び付けた。
- イベント会場では、防災倉庫内の防災備品を紹介。さらに、防災リーフレットを配布し防災意識を高めた。

実施期間 令和4年5月1日～12月6日

参加人数 約60名

事業総額 約23万円

(地域の底力発展事業助成金 19万5,000円)

役割分担

《計画立案(3名)》町会まちづくり部部長がユニバーサル野球を提案、町会役員と計画を策定

《野球盤組立(7名)》和泉仲通り睦会、町会役員が野球盤組立作業を担当

《会場運営(39名)》町会役員(14名)、町会員、和泉仲通り睦会、大人塾連、高校生が会場設営、イベント運営を担当

主な経費(助成対象)

- 打合せ経費 ペットボトル水・お茶
(会場準備水分補給・反省会用)
- 印刷経費 チラシ印刷
- 物品購入費 備品(養生テープ・ゴミ袋・雑巾等)
参加賞
- 役務料 ボランティア保険
- 委託料 チラシデザイン料、実況アナウンサー料
- レンタル・リース料 ユニバーサル野球盤
- 工事費 ユニバーサル野球盤設営費

事業の開始から終了までの主な流れ

令和4年

5月1日 町会役員会にて初回打合せ

6月1日 町会役員会にて参加者チームの構想、協力団体への打診・実施日程を決定

9月1日 当日の機材搬入スケジュール調整と確認
神輿の会(睦会)に協力要請

10月1日 回覧板原稿決定

10月7日 チラシデザイン決定、印刷手配
スーパー、町会掲示板にチラシ提出

11月1日 町会役員会にて詳細報告・当日の役割分担を決定

11月20日 当日の役割分担の確認、最終打合せ

11月26日 「ユニバーサル野球」実施、反省会



参加募集チラシ

年齢や障害の有無などに関わらず誰もが主役になれる 「ユニバーサル野球」を開催

地域で人々の交流を広げて「顔の見える街づくり」を推進しようと、誰もが主役になれる「ユニバーサル野球」を地元の小学校で開催した。

ユニバーサル野球は、5m四方の巨大な野球盤を使った競技。ひもを引くだけの動作でバットが動いて球が転がる仕組みとなっているため、年齢や障害の有無などに関わらず誰もが楽しめる。

当日は、地元高校生や老人会が参加し、4つのチームを作って2試合を実施。ヒットやホームランが出るたび歓声が沸くなど、応援を通じて世代を超えたコミュニケーションが生まれた。参加者からは、「様々な世代の方から応援されて嬉しかった」「近所に顔見知りの方ができ交流が生まれた」との声が聞かれた。

さらに、防災倉庫を開けて、万一の時の備えについて紹介するとともに、防災リーフレットを配布する取組を実施。住民が多く集まる機会にあわせて防災意識の向上を図った。

当日は、地元の神輿の会（和泉仲通り睦会）や地域団体なども手伝い、新たな交流が生まれた。



試合に参加した皆さん



事業による 成果・効果

新たな連携・交流を広げるきっかけに

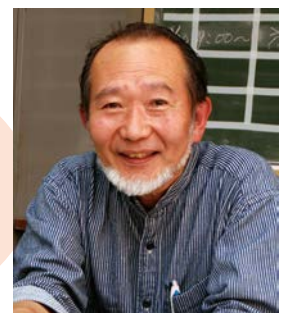
「地元高校の生徒も15名ほど参加してくれました。競技に参加した人も応援した人も、世代やコミュニティの違いを超えて、心を一つにして楽しめました」と町会まちづくり部部長の岩崎さんは笑顔で語る。終了後の反省会では、「毎年恒例の催しに育てよう」という意見が出され、地域交流の活性化や町会への加入促進につながるイベントとなる可能性を実感している。

また、企画や運営に関わった地元の神輿の会や杉並区大人塾の卒業生とは交流が深まり、今後、イベントなどでコラボレーションを進めていく足がかりとなった。

事業を振り返って

心と心がつながる街づくりを

「この野球盤はひもを引くだけでバットを振ることができ、誰もが楽しめます。今回はおばあさんが2打席連続ホームランを打って試合を決めるなど、応援している人たちもすっかり夢中になりました」とユニバーサル野球実施を提案した岩崎さん。「地域活動では、遊びや楽しさを取り入れていくことも必要だと考えます。人は結局、心が大切です。世代や立場の違いを超えて、少しずつでも心と心のつながりをつくって、地域の交流を深めていきたい」と話す。



ユニバーサル野球の提案をした町会まちづくり部部長の岩崎さん